【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成18年6月15日(2006.6.15)

【公開番号】特開2000-308033(P2000-308033A)
【公開日】平成12年11月2日(2000.11.2)
【出願番号】特願平11-111424
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｎ　7/14　(2006.01)
Ｇ０９Ｇ　5/00　(2006.01)
Ｈ０４Ｍ　1/00　(2006.01)
Ｈ０４Ｍ　1/02　(2006.01)
Ｈ０４Ｍ　1/21　(2006.01)
Ｈ０４Ｍ　11/02　(2006.01)
Ｈ０４Ｑ　7/38　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｎ　7/14
Ｇ０９Ｇ　5/00　５１０Ｓ
Ｈ０４Ｍ　1/00　Ｕ
Ｈ０４Ｍ　1/02　Ｃ
Ｈ０４Ｍ　1/21　Ｚ
Ｈ０４Ｍ　11/02
Ｈ０４Ｂ　7/26　１０９Ｍ

【手続補正書】
【提出日】平成18年4月19日(2006.4.19)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】　携帯テレビ電話端末の機能を補助するテレビ電話補助装置であって、
携帯テレビ電話端末に接続するための接続部と、
画像を表示するための補助表示部と、
携帯テレビ電話端末が通信相手から受信した画像を補助表示部に表示させる制御を行う制御部とを備えたことを特徴とするテレビ電話補助装置。
【請求項２】　画像を入力するための補助入力部をさらに備え、
制御部は、携帯テレビ電話端末に代わって補助入力部から画像を入力させ、入力画像を携帯テレビ電話端末から通信相手に送信させる制御を行うことを特徴とする請求項１記載のテレビ電話補助装置。
【請求項３】　制御部は、携帯テレビ電話端末に入力画像を表示させるとともに、携帯テレビ電話端末から通信相手に入力画像を送信させることを特徴とする請求項２記載のテレビ電話補助装置。
【請求項４】　前記補助入力部が画像入力中であることを操作者に報知するための補助報知部をさらに備えたことを特徴とする請求項２または３記載のテレビ電話補助装置。
【請求項５】　携帯テレビ電話端末と、その機能を補助するテレビ電話補助装置とを接続して構成されるテレビ電話システムであって、
携帯テレビ電話端末は、画像を表示するための主表示部を備え、
テレビ電話補助装置は、画像を表示するための補助表示部と、

携帯テレビ電話端末が通信相手から受信した画像を補助表示部に表示させる制御を行う制御部とを備えたことを特徴とするテレビ電話システム。

【請求項６】　携帯テレビ電話端末に接続するための接続部と、画像を表示するための補助表示部とを備え、携帯テレビ電話端末の機能を補助するテレビ電話補助装置において実行されるテレビ電話制御方法であって、

携帯テレビ電話端末が通信相手から受信した画像を補助表示部に表示させる制御を行うことを特徴とするテレビ電話制御方法。

【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
【課題を解決するための手段】
本発明は、携帯テレビ電話端末の機能を補助するテレビ電話補助装置であって、
携帯テレビ電話端末に接続するための接続部と、
画像を表示するための補助表示部と、
携帯テレビ電話端末が通信相手から受信した画像を補助表示部に表示させる制御を行う制御部とを備えたことを特徴とするテレビ電話補助装置である。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
本発明に従えば、携帯テレビ電話端末が通信相手から受信した画像を、テレビ電話補助装置の補助表示部に表示するので、画像が見やすくなり、視認性を向上することができる。また、テレビ電話補助装置は、表示画面を持った家庭用のテレビ受信機などに、接続部と制御部とを追加するだけで比較的簡単に実現できる。したがって、家庭用の据置端末を有効に活用して、携帯テレビ電話端末の表示機能を補助することができる。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
また本発明は、画像を入力するための補助入力部をさらに備え、
制御部は、携帯テレビ電話端末に代わって補助入力部から画像を入力させ、入力画像を携帯テレビ電話端末から通信相手に送信させる制御を行うことを特徴とする。

【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
本発明に従えば、上記のように補助表示部に画像を表示する場合、操作者の視線は、補助表示部に向けられる。そこで、携帯テレビ電話端末に代わって、テレビ電話補助装置の補助入力部によって画像を入力させる。これによって、操作者の視線に合致した画像入力が可能となり、通信相手に違和感のない視線での画像を送ることができる。また、テレビ電話補助装置は、表示画面とカメラとを持ったパーソナルコンピュータなどに、接続部と

制御部とを追加するだけで比較的簡単に実現できる。したがって、家庭用の据置端末を有効に活用して、携帯テレビ電話端末の表示機能を補助することができる。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
　また本発明は、前記制御部が、携帯テレビ電話端末に入力画像を表示させるとともに、携帯テレビ電話端末から通信相手に入力画像を送信させることを特徴とする。
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１４】
　本発明に従えば、補助表示部には受信画像、携帯テレビ電話端末には送信画像をそれぞれ個別に表示できるので、操作者は、受信画像を見ながら、必要なときに送信画像のチェックができ、操作性を大幅に向上でき、携帯テレビ電話端末の表示機能も有効に活用可能である。
　また本発明は、前記補助入力部が画像入力中であることを操作者に報知するための補助報知部をさらに備えたことを特徴とする。
　本発明に従えば、補助入力部から画像が入力されたことが補助報知部によって操作者に報知されるので、操作者に視線を補助入力部へ向ければよいことを確認させることができ、安堵感を得ることができる。
【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１５】
　また本発明は、携帯テレビ電話端末と、その機能を補助するテレビ電話補助装置とを接続して構成されるテレビ電話システムであって、
　携帯テレビ電話端末は、画像を表示するための主表示部を備え、
　テレビ電話補助装置は、画像を表示するための補助表示部と、
　携帯テレビ電話端末が通信相手から受信した画像を補助表示部に表示させる制御を行う制御部とを備えたことを特徴とするテレビ電話システムである。
【手続補正９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１７
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正１０】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１８
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正１１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１９

【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正１２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２０
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正１３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２１】
また本発明は、携帯テレビ電話端末に接続するための接続部と、画像を表示するための補助表示部とを備え、携帯テレビ電話端末の機能を補助するテレビ電話補助装置において実行されるテレビ電話制御方法であって、
携帯テレビ電話端末が通信相手から受信した画像を補助表示部に表示させる制御を行うことを特徴とするテレビ電話制御方法である。
【手続補正１４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２４】
携帯テレビ電話端末１は、表示部４、カメラ５、ＬＥＤ（発光ダイオード）６、操作部９およびアンテナ１０などを備える。表示部４は、たとえば３インチ程度の液晶表示装置であり、画像を表示する。カメラ５は、ＣＣＤ（電荷結合素子）カメラなどであり、表示部４の近傍に設けられる。ＬＥＤ６は、表示部４とカメラ５との近傍に補助報知部として設けられ、カメラ５が作動して画像入力中であるときに点灯し、そのことを操作者に報知する。
【手続補正１５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２５】
スピーカ７は、通信相手から受信した電気信号を音声に変換する。マイクロホン８は、操作者が発する音声を電気信号に変換する。操作部９は、たとえば複数の押ボタンキー、またはタッチパネルなどで構成され、操作者によって自在に操作可能である。これらのスピーカ７、マイクロホン８および操作部９は、電話機能を実現する。指定部１１は、補助入力部として操作部９に設けられ、たとえば押ボタンキーの一部であって、操作者が操作することによって、入力画像の送信の可否を指定することができる。アンテナ１０は、外部からのデータを受信または外部へデータを送信する。
【手続補正１６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２７】
据置端末２は、本発明のテレビ電話補助装置を構成し、表示部１２、カメラ１３、ＬＥ

Ｄ１４および操作部１５などを備える。表示部１２は、たとえば１０インチ程度の液晶表示装置である。カメラ１３は、ＣＣＤ（電荷結合素子）カメラなどであり、表示部１２の近傍に設けられる。ＬＥＤ１４は、表示部１２とカメラ１３との近傍に補助報知部として設けられ、カメラ１３が作動して画像入力中であるときに点灯し、そのことを操作者に報知する。操作部１５は、たとえば複数の押ボタンキー、またはタッチパネルなどで構成され、操作者によって自在に操作可能である。指定部１６は、補助入力部として操作部１５に設けられ、たとえば押ボタンキーの一部であって、操作者によって表示形態の指定が可能である。

【手続補正１７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４８】

また、操作者は、受信画像を見ながら、必要なときに送信画像のチェックができ、操作性を大幅に向上でき、携帯テレビ電話端末の表示機能も有効に活用可能である。

また、補助入力部から画像が入力されたことが補助報知部によって操作者に報知されるので、操作者に視線を補助入力部へ向ければよいことを確認させることができ、安堵感を得ることができる。